

平成12年度評議員会

日 時：平成12年11月3日（金）17:00-20:10

場 所：金沢シティモンドホテル

出席者：遠藤卓郎、遠藤 浩（大会長）、彼谷邦光、洲崎敏伸（次期大会長併任）、高橋三保子、月井雄二、長澤秀行、沼田 治、野澤義則、芳賀信幸、春本晃江、藤島政博、細谷浩史、前田昌調、見上一 幸、三輪五十二、盛下 勇、渡辺 彊

欠席者：今井壮一、金田良雅、神原廣二、竹内勤、田辺和裕

議題：総会提出議題の検討

平成12年度総会議事

1. 会計関係

イ. 平成11年度決算報告

ロ. 平成13年度予算案

事務補助費費の費目名を「事務諸経費・謝金」とすることを含めて了承された。

2. 編集関係

原生動物学雑誌第33巻が発行された旨の報告があった。

3. 庶務関係

イ. 会員異動について

平成12年10月13日現在、現会員数225名（内訳、名誉会員6名、一般会員143名、学生会員70名、賛助会員6件）、入会者28名、退会者25名、会費3年滞納者数9名が報告された。

ロ. 奨励賞受賞者選考について

3名の推薦があったが、内規に従って審査を行い、高知大学理学部の松岡達臣会員を選出した旨が報告された。

ハ. 外国人特別講演者について

「外国人特別講演に関する申しあわせ」にしたがって、Rüdiger Schmitt 教授（Regensburg 大学）を選出した旨報告された。

ニ. 次期会長、庶務、会計、編集、監事（会計監査）の選出について

会長を高橋三保子、庶務を見上一幸、会計を三輪五十二、編集を洲崎敏伸、監事を彼谷邦光と沼田治評議員に決定した旨が報告され承認された。

ホ. 第11回国際原生動物学会参加補助金について

3名の申請があったが、開催予定地の政情不安が解消し、実施のメドがついた時点で再募集案内を学会ホームページに掲示することになった。

ヘ. 次期（34回）大会の準備状況について

洲崎敏伸会員（神戸大学）から、神戸市で平成13年11月17日（土）と18日（日）に開催することが報告された。

ト. 次々期（第35回、平成14年）大会長と開催地について

高知大学理学部の松岡達臣を大会長とし、高知市で開催することが承認された。

チ. 学会の活性化について

学会活性化WGが公開シンポジウムの開催を企画していることが報告された。また、評議員会で学会の名称変更を含めた学会活性化が継続審議されていることが報告された。

平成11年度 日本原生動物学会会計決算報告

(収入)

前年度繰越金	1,405,783
学会費	734,900
賛助会費	50,000
寄付	500
学会誌・別刷代	10,000
利子	3,200
計	2,204,383

(支出)

雑誌印刷代（第32巻）	607,950
雑誌郵送代	18,530
大会補助費	200,000
奨励賞副賞費	100,000
通信費	11,535
評議会費	20,000
事務諸経費・謝金	100,000
その他	6,799

計 1,064,814

平成11年度残高（繰越金） 1,139,569

平成11年度 日本原生動物学会国際交流基金決算報告

(収入)

前年度繰越金(定額預金)	1,000,000 + 利子
前年度繰越金(普通預金)	1,004,178
寄付(樋渡宏一)	250,000
利子	1,809
計	2,255,987 + 利子

(支出)

外国人招待者謝金	300,000
計	300,000
平成11年度残高(繰越金)	1,955,987 + 利子

平成11年度 日本原生動物学会基金報告

定額預金	1,029,000 + 利子
普通預金	36,315
計	1,065,315 + 利子

平成13年度 日本原生動物学会会計予算案

(収入)

前年度繰越金	1,100,000
学会費(6,500 × 144 + 2,500 × 72)	1,116,000
賛助会費	50,000
利子	2,000
計	2,268,000

(支出)

雑誌印刷代(第34巻)	750,000
雑誌郵送代	20,000
大会補助費	200,000
奨励賞副賞費	100,000
通信費	20,000
評議会費	20,000
事務諸経費・謝金	100,000
その他	10,000
計	1,220,000
残高	1,048,000

平成13年度 日本原生動物学会国際交流基金予算案

(収入)

前年度繰越金(定額預金)	1,000,000 + 利子
前年度繰越金(普通預金)	950,000
寄付	250,000
利子	700
計	2,200,700

(支出)

外国人招待者謝金	250,000
国際学会参加援助金	500,000
計	750,000
残高	1,450,700 + 利子

第1回大会以来の開催地及び大会長

	開催地	開催年度	大会長
第1回	小平市	昭和42年	藤田 溥吉
第2回	吹田市	昭和43年	猪木 正三
第3回	広島市	昭和44年	尾崎 佳正
第4回	東京都	昭和45年	松林 久吉
第5回	徳島市	昭和46年	尾崎 文雄
第6回	仙台市	昭和47年	樋渡 宏一
第7回	奈良市	昭和48年	稲葉 文枝
第8回	東京都	昭和49年	石井 圭一
第9回	大阪市	昭和50年	高田 季久
第10回	東京都	昭和51年	盛下 勇
第11回	岐阜市	昭和52年	野澤 義則
第12回	横浜市	昭和53年	斎藤 実
第13回	吹田市	昭和54年	中林 敏夫
第14回	つくば市	昭和55年	渡辺 良雄
第15回	広島市	昭和56年	重中 義信
第16回	東京都	昭和57年	石井 俊雄
第17回	津市	昭和58年	安達 六郎
第18回	東京都	昭和59年	浅見 敬三
第19回	大分県	昭和60年	山高 里盛
第20回	東京都	昭和61年	小山 力
第21回	山口市	昭和62年	星出 一巳
第22回	つくば市	昭和63年	渡辺 良雄
第8回国際原生動物学会			
	つくば市	平成元年	樋渡 宏一
第23回	長崎市	平成2年	神原 廣二
第24回	伊勢原市	平成3年	金田 良雅
第25回	奈良市	平成4年	菅沼 美子
第26回	石巻市	平成5年	樋渡 宏一
第27回	帯広市	平成6年	鈴木 直義
第28回	小金井市	平成7年	鶴原 喬
第29回	東広島市	平成8年	細谷 浩史
第30回	水戸市	平成9年	三輪五十二
第31回	岐阜市	平成10年	野澤 義則
第32回	仙台市	平成11年	渡辺 彊
第33回	金沢市	平成12年	遠藤 浩

奨励賞に関する内規

学会の若手会員の研究活性化のため、日本原生動物学会奨励賞授賞制度をおく。

1. 受賞者は会員の中から原則として年に1名とする。
2. 候補者は自薦でなく会員からの推薦とする。
3. 候補者として推薦された者は、必要書類（履歴書、研究業績リスト、会員歴、主要論文別冊5編）各3部を推薦者に提出する。
4. 推薦者は毎年8月末までに申請書類（推薦理由書、候補者からの必要書類各3部）を会長あてに送付する。
5. 評議員会において互選により奨励賞審査委員3名および選考委員長1名（いずれも任期3年）を選び、審査を行い、結果を評議員会に諮って受賞者を決定する。

奨励賞受賞者名

1991年	沼田 治（筑波大学） テトラヒメナの多機能タンパク質の研究
1992年	田辺和祐（大阪工業大学） マラリア原虫の寄生に関する分子生物学的研究
1993年	彼谷邦光（国立環境研究所） 環境適応における脂質分子の役割
1994年	今井壮一（日本獣医科大学） ルーメン内繊毛虫の分類学的研究
1995年	見上一幸（宮城教育大学） ゾウリムシの二核性と核分化の研究
1996年	藤島政博（山口大学） ゾウリムシとホロスボラの共生における宿主-共生生物間相互作用
1997年	（受賞者なし）
1998年	芳賀信幸（石巻専修大学） イマチュリン：未熟期の分子機構
1999年	広野雅文（東京大学） クラミドモナスの非保存的アクチン
2000年	松岡達臣（高知大学） 繊毛虫プレファリスマのキノン光センサーと光シグナリング

日本動物分類学関連学会連合第2回総会

昨年度、当学会も参加を決定した上記連合の第2回総会が平成13年1月14日、国立化学博物館分館で開催され、高橋（会長）と月井（評議員）が出席した。議題は、連合としての運営形態を明確にするため、運営規則を決めたこと・役員を選出したこと・分類学研究センターに向けた行動プランについての議論が主なものであった。参加団体は、日本ほ乳類学会・日本生物地理学会が新規加入し、11学会となった（他には、日本貝類学会・日本魚類学会・日本蜘蛛学会・日本甲殻類学会・日本ダニ学会・日本動物分類学会・日本土壌動物学会・日本爬虫両生類学会）。役員は会長；馬渡竣輔氏、幹事；友国雅章・野田泰一・天野洋・金子信博氏が選ばれた。分類学研究センターは分類学を盛んにするための「トリガー」として立ち上げたい、現在、北大でその設立準備を進めている、との報告が会長からあり、議論が交わされた。ニュースレターを発行することになっており、今後、当学会がどのようにこの連合に関わっていくか、検討課題として残された問題である。（高橋）

国際動物命名規約第4版 日本語版の出版と頒布について

「国際動物命名規約第4版 日本語版」が日本動物分類学関連学会連合から出版された。英仏語版の規約は今年の1月1日から発効しているが、この版から動物命名法国際審議会の認定を受けた各国語版も、「英仏語版と同等の効力と意味と権威を有する正文である」ことが規定された。このほど出版された日本語版は、今年の7月17日付で同審議会から正文であるとの認定が得られているので、この版の条文に基づいて命名法上のさまざまな処理が可能になった。日本語版の出版により難解な英仏語版の条文から解放されることは、個々の研究者のストレスを軽減するばかりでなく、動物分類学の普及にも貢献するであろう。

日本語版はB5判、152頁、クロス張ハードカバーで頒布価格は3000円（送料込）である。価格の半分近くはロイヤリティーとして、著作権を持つ動物命名法国際信託に支払われる。大きい財政赤字を抱えている同信託の援助にもなるので、多くの会員が購入して下さるようお願いする。

購入を希望される会員は、氏名、送付先住所、電話番号、必要部数と、公費払いをご希望の場合はそれに必要な書類と通数、宛先および日付の記入方法を明記の上、下記へ申し込またい。なお、電子メールをお使いの会員は、ファクスではなく必ずメールをお使い頂きたい。

購入申し込みおよび問い合わせ先：

国立科学博物館動物研究部 友国雅章（tomokuni@kahaku.go.jp；Fax: 03-3364-7104）

原生動物関連国際会議のお知らせ

会議名： 11th International Congress of protozoology (ICOP-XI)

期 日： July 15-19, 2001

開催場所： Renaissance Salzburg Hotel, Salzburg, Austria.

連絡先： XI International Congress of protozoology

P.O. Box 50006, Tel Aviv 61500, ISRAEL

Tel: +972 3 5140014, Fax: +972 3 514 0077, E-mail: protozoology@kenes.com

Website: www.kenes.com/protozoology

会議名： FASEB Ciliate Molecular Biology Conference

期 日： July 28-August 2, 2001

開催場所： Vermont Academy, Saxtons River, Vermont, USA.

連絡先： FASEB Ciliate Molecular Biology Meeting organizers:

Jeff Kapler (gkapler@tamu.edu)

Jacek Gaertig (jgaertig@cb.uga.edu)

Laura Landweber (lfl@princeton.edu)